

第5回 日向工業高等学校建築科「よのなか教室」

平成27年8月27日（木）

講師：渡辺公季子氏【ひゅうがリサイクルセンターコンシェルジュ課係長】

テーマ：「いま、未来のためにできる事」

コンシェルジュという言葉は、ホテルなどでよく使われるものです。主に外部の方と接する事の多い職種「お客様係」という意味合いで使われています。私達の仕事は「ゴミ処理」や「リサイクル」を行う事ですが、皆さんどういったイメージがありますか？あまり良くないイメージがあると思います。では、なぜリサイクルをしなければならないのでしょうか。世界中には、沢山の動植物が生きていますが、その7割が絶滅危惧種に登録されています。その原因の多くが、地球温暖化や森林伐採などの環境問題です。例えば、宮崎の海岸に産卵に来るアカウミガメがいます。ウミガメはクラゲを食べて生きています。そこに廃棄された農業用ビニールハウスの残骸などが海を漂っていると、クラゲと間違えて食べてしまいます。結果、消化できずに死んでしまうという事例が過去に多発していました。これの対策として、廃ビニールや塩ビパイプの処理を、まだリサイクルという言葉が無い時代に黒田工業は取りかかりました。ひゅうがリサイクルセンターでは、家庭ゴミの中から金属を種類別に取り出し、次の会社へ引き渡すことをしています。そのほかにも、飲料用のペットボトルや缶類も、次の会社で溶かして別の製品に出来るよう、異物を取り除いた後リサイクル材料として出荷しています。スチール缶は建築材料や電車のレールなど、幅広く活用されています。ペットボトルは細かく砕いて出荷し、定規や洗面器、軍手やシャツなどの繊維に加工されています。一番重要な部分は仕分ける作業で、それは一つひとつ手作業で行われています。この他、分別の指導をする役目や、車で資源物を回収する業務、処理の計画をする業務、施設整備、経理など様々な仕事が集まって会社は動いています。その中で、お客さんと接する仕事は、百人いたら百通りの対応があります。自分らしく、一度来たらまた行きたいと言っていただけるように対応しています。何よりもコミュニケーションと笑顔が大切です。



～生徒の感想～

- 動物がいなくなることは、しょうがない事らしい。だが事の本質は、いなくなるスピードが問題で、死の原因をつくっているのは、他ならぬ人間だ。

私達が生きていくために、野菜を作ろうとビニールハウスを利用します。その材料のビニールが風などで飛んでいき、川や海などから流れ出て、クラゲを捕食しているウミガメが誤って食べ、消化できずに死んでいくそうです。他にも砂漠化や大気汚染、地球温暖化など、様々な事象が起こっています。そこで、リサイクルを始めたのが黒田工業でした。今回は、渡辺さんと中川さんが来て下さいました。渡辺さんは、接客をするに当たって、絶対的にコミュニケーションが大切だとおっしゃっていました。ひゅうがリサイクルセンターでは、一人一人が「自分らしく」、「また行きたいと思ってもらえる会社」を目指し、頑張っているそうです。ひゅうがリサイクルセンターでは、プラスチック系は圧縮梱包して分けて再生原料にし、疑木やゴミ袋など様々なものに利用されます。缶類は、家を建てる時の材料や車の材料、再生缶になります。ペットボトルも洗面器や軍手などの繊維になります。いろいろな工夫で再利用されるこのシステムを大切に、私達も協力していきたいと思えます。＜玉田智華＞

- 「臭い」「汚い」「働きたくない」。リサイクルに持った最初のイメージでした。今回の話を聞くまでは・・・。

みんなは、リサイクルというとゴミをイメージすると思います。私もゴミが沢山あるイメージを持っていました。ある日、きれいなお姉さんが学校にやってきて、こんな事を言いました「リサイクルセンターはあなたたちが思っている所と、ちょっと違う」。私は正直言って「ウソや」と思いましたが、全体の話を聞くうちに、イメージが一気に変わりました。それは、向き合う相手はゴミではなく、「お客様」であるという所です。リサイクルセンターでお客様相手というのは、聞いた事はありませんでしたが、色々な所のお客様と話をしているそうです。電話で話す時、センターに持ってこられた時、リサイクルされた物を渡す時など、色々な所で人と接していることが分かりました。コミュニケーションを上手くとらなければ、「もう行きたくない」という気持ちにさせるでしょう。そうなれば、行き場所のないゴミが増え、悪い影響を与えることになるでしょう。そうならないために、日々努力されているのだと感じました。私はポイ捨てをしたことがあります。友達がしているのを見ぬふりしたこともあります。これからは、自分だけではなく、他人にも指摘できるようになりたいと思えます。＜染田 諭＞

- 「人から言われたことでなく、人を感心させるような行動をとる」これは、私が好きな小説に書かれている文です。今回の講演を聴いて、この言葉が頭に流れました。講話をしてくださった渡辺公季子さんは、「社会に出たら、どんなに嫌でもどんなに苦手でも、人とのコミュニケーションやつながりを大切にしなければいけない」とおっしゃっていました。これは、相手との会話だけでなく、協力関係の作り方を示していると思います。渡辺さんは、マニュアル通りだけでは一人ひとりに対応出来ない場合があり、そんなことでは信頼関係を築くことはできないと言っていました。考えてみれば、当たり前な事だと思います。同じ行動や言葉の繰り返しで対応されれば、不満に思う人が出てきて、それが原因で契約が切られる事につながるかも知れません。私は、基本的な対応と同時に、臨機応変に行動できる人間になろうと思います。

他にも今回の講話では、これからの自分の行動を考え直してみようと感じました。それは、「ほうれんそう」です。これは報告・連絡・相談のことで、今の私には出来ていない事です。せっかく先生方がこのような機会を与えて下さったので、高校生のうちに出来るようになりたいです。まだまだ私は未熟なので、これまでの人付き合いを見直して、しっかりとした人生を送っていきたいです。〈菊池柊真〉